

【事例発表資料】多面的機能支払交付金の取組状況

1. 組織の概要及び取組事例

活動組織名	曾根地域環境を守る会		市町村名	栗原市				
取組開始年度	19 年度～	構成員	農業者	63 名				
			非農業者	27 名				
			団体	6 団体 (主な団体) 真坂土地改良区 曾根行政区、曾根子供会等				
認定農用地面積	田	91.5ha	畑	0ha	草地	0ha	計	91.5ha
平成26年度 交付金	農地維持支払交付金			2,746千円				
	資源向上支払（共同活動）			1,648千円				
	資源向上支払（施設の長寿命化）			0千円				
①地域の概要	本地域は栗原市の北西部に位置し、秀峰栗駒山を源とする迫川が東西に流れる流域に沿った圃場整備のされた水田地帯を形成する集落です。							
②取組概要	自治体の行政区を活用し構成員90名で農地及び農業用施設の保全、維持管理活動等を行っている。 基礎活動では、用排水路の土砂上げや農道の側溝の草刈り、農道の砂利敷き、施設の点検、地域住民との交流会、仙台市荒町小学校とのバケツ稲農業体験交流を実施。保全活動では植栽活動、生き物調査、施設管理では、水門ゲートのペンキ塗り等、行政と土地改良区、学校との連携を図りながら実施。							
③取組の効果	本事業に取り組んでから、地域のコミュニケーションが活発になり、まとまりができてきていることで個々の問題や、課題の解決に向けた取り組みに発展するなど行政に頼る事が少なくなっている。							
④課題	構成員の高齢化、非農業者の増加により作業への参加者が減少傾向にある。いかにして地域の環境を守っていくか啓発活動が難しくなっている。							
⑤その他	6年前からJAの協力を頂きながら、仙台市荒町小学校5年生とのバケツ稲農業体験交流を実施してきました。今、このように農業・漁業者の担い手不足は学校教育の不足から来ていると思われまます。バケツ稲を通じた擬似体験、耕起・代掻き・田植え・稲刈り等は都会の子供たちにとっては未知の体験のようで非常に興奮し、また、興味深々で取り組んでいます。年4回の学校に出向いての出前授業ですが、農業の大切さや食料のありがたさを伝えたいと、地域住民みんなで取り組んでおります。11月の稲刈り収穫祭には、とれたての新米ササニシキと地元野菜の具沢山の豚汁でしめくります。子供たちの受け止め方もそれぞれで大変興味深いものがあります。このような活動を通してこれからも地域が一体となり楽しい農業に取り組める体制と地域の環環を守っていきたくと考えています。							

2. 取組写真



① 農道・水路等 草刈共同作業



② 農道整備・砂利敷き共同作業



③ 水路泥上げ共同作業



④ バケツ稲交流 田植え作業



⑤ お米の収穫について授業風景



⑥ バケツ稲交流収穫祭・米粉ピザと具沢山の豚汁